

中谷防衛大臣訓示

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

先ほど、諸君一人ひとりが、國分学校長から、整然と、凜として、堂々と卒業証書を受け取る姿を拝見し、防衛大学校で学んだことへの自身と誇り、無限の可能性と熱き気概を、そして、今後の厳しい任務の中にあっても、人の上に立って、しっかり組織を掌握し、国民の負託に応えることのできる、強く、優しい、立派な幹部候補生になったことを確信しました。

「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり。」

ここで言う「道」とは、物事の道理、人の在り方であり、諸君は、ここ小原台で、いろいろなことを考え、学び、大切なことを身につけたことと思います。

視野を広く開き、科学的考察を養い、豊かな人間性に処世の道を求めて、国家及び社会に責任を持った幹部自衛官として、その職責を果たし得る人格と技能を修める。

「良き自衛家の前に、良き社会人であり市民たれ。紳士たれ。」

日本が主権を回復し、国際社会に復帰した昭和27年、自衛隊の前身である保安庁が設立された時、保安大学校が設置されました。

作用は人を作る。集団生活での学び、学生舎生活での規律。

理想と尊い感情は重んぜられ、服して威信を傷つけぬ慣行は、伝統となって、これを生活の誇りとする。

この共同生活は、個性を喪失させるものではなく、むしろ、個人に信の自由を与え、自身と闘志を湧き上がらせ、友情と愉快的雰囲気の中での生活、営みを与えてくれました。

学生諸君、よくぞ、耐えて、自らを鍛え、磨いてくれました。

学問と履修。学問は、妥協を許さない一つの規律であります。同時に、光明と力の源泉となります。防衛大学校のカリキュラムは、均整の取れた思慮分別のある人として成長してゆくことを目標としております。また、国家社会の基礎学の習得なしに、平和と国の独立を守る仕事に必要な、時局の正確な判断は不可能です。

次に大事なことは、実働の訓練です。

皆さんは、校友会活動を続けてこられました。私はラグビー部でしたが、そこで学んだことは、「体で悟り、体で覚えること。」「体で悟った心理こそ、我がものなのです。」

一国の平和と独立を守るには、規律ある部隊行動と共に、体力と精神力の鍛錬が必要です。これは、私が、自衛隊のレンジャー訓練で教えられたことです。指導官、上に立つものは、勇気と迫力、忍耐と、困難を克服する気力の育成に最善を尽くさねばなりません。

統率の要諦は、人に好かれること。判断を間違わないこと。職責を放棄しないことです。

そして、国を愛する心。卒業生は、誰よりも、防衛という任務の尊さを考えなければなりません。

昨年、国会で、平和安全放映が成立しました。

我が国を取り巻く安全保障環境は、ますます厳しさを増しています。アジア太平洋地域を含め、グローバルなパワーバランスの変化が起きています。

北朝鮮は、日本の大半を射程に入れる数百発もの弾道ミサイルを配備し、核兵器開発を進展させています。今月18日にも、北朝鮮西岸のスクチョン付近から弾道ミサイルが発射され、約800km飛翔し、日本海上に落下しました。現下の朝鮮半島情勢を踏まえれば、今

後、北朝鮮が局地的な挑発を含む更なる挑発行動に出る可能性も否定できません。北朝鮮による核兵器及び弾道ミサイル開発の進展は、我が国の安全保障上、極めて強く懸念すべきものであります。

一方、我が国周辺海空域における中国軍やロシア軍の活動も大いに活発化しています。自衛隊のスクランブルの回数は、10年前に比べ、約7倍に増えています。

また、東シナ海においては、中国が、公船による領海侵入を繰り返しています。今年19日にも、海警3隻が尖閣付近で、我が国の領海を侵犯しました。

南シナ海においては、中国が、領有権について対立がある中、大規模かつ急速な埋め立て、拠点構築、軍事目的での利用など、現状を変更し緊張を高める一方的な行動を継続しています。

ハリス米大洋軍司令官は、「中国は今まさに人工島を自らの軍事能力の前方展開のための作戦拠点に変えつつある。」と証言しました。

今後、南シナ海においては、海警のほか、海軍や空軍のプレゼンスが増大される可能性があります。いわゆるA2AD能力を向上させることで同海域における航行の自由が妨げられかねないなど、安全保障上の影響も否定できません。

防衛省としても、我が国の安全保障に与える影響を注視しつつ、いかなる対応を取っていくべきか、引き続き検討していかなければなりません。

又、アルジェリア、シリア、チュニジアでは、日本人が犠牲になるなど、昨今、ISILを始めとした、暴力的なテロ過激主義が台頭しています。最近も、トルコ、エジプトで大規模な自爆テロ事件があり、多くの市民が殺害されました。

今や脅威は容易に国境を超えてくる時代となり、もはや、どの国も一国のみでは、自国の安全を守れません。

私たちは、このような厳しい現実から目を背けることはできません。政府としては、いかなる事態が起きてても、国民の命と平和な暮らしを守りぬかねばなりません。国民の安全を守るために、必要な自衛の措置とは何かを考え抜き、あらゆる事態を想定し、切れ目のない備えを行う責任があります。

また、日米同盟は、我が国の安全保障の基軸です。我が国に駐留する米軍のプレゼンスは、地域における不測の事態の発生に対する抑止力としても機能します。日本が攻撃を受ければ、米軍は、日本を防衛するために、力を尽くしてくれます。そして、日米安全保障条約の義務を全うするため、我が国周辺において、適時適切に警戒監視の任務に当たっています。平時からグレーゾーン、手段的自衛権に関するものも含め、あらゆる事態に切れ目なく、日米が一層緊密に協力し、対応していくため、平和安全法制は不可欠な法律です。

このような背景から、平和安全法制が国会において成立しました。これにより、様々な危機に対する日米間の共同対処能力は飛躍的に向上し、もし、日本が危険にさらされるような事態が発生した場合でも、日米同盟は完全に機能するようになります。更に、このことを世界に発信することによって、紛争を未善意防止する力、すなわち抑止力はさらに高まり、日本が攻撃を受ける可能性は一層少なくなっていくと考えています。

この平和安全法制は、日本の平和を維持し、戦争を抑止するためのものです。誰もが、世界の平和と無事を願っています。平和は最大の福祉であり、国民は、国が繁栄すること、物資が豊かで、心が豊かな、安楽な暮らしに憧れています。

しかし、災いは忘れた頃にやってくるものです。そうであるからこそ、明日への備えが必

要です。今、目の前の世界が平穏に見えても、世の中の全てが平穏であるということではありません。突然のテロ、継続中の紛争など、今この瞬間にも、世界の何処かで緊迫した状況が続いております。

平素からの備えを行っていないければ、突如として襲いかかる災害に間に合わないのは当然のことです。

一方、平和な平素において、起こり得る脅威をしっかりと想定し、これに備えることは困難なことです。しかし、この備えを怠ったがゆえに、招かない難を招き、また、備えていないために、難が降りかかったことに混乱して、悲惨な状態に陥った事例は、歴史の中に数多く残されています。

自衛隊の存在は、将来起こり得る脅威に、平素から備えを行うためにあります。この難事の中の難事を行うことに、隊員一人一人が使命感と誇りを持って取り組んで欲しいと思います。

さて、海外留学生の皆さん、卒業おめでとうございます。習慣も言葉も違う日本での勉強、大変であったと思います。先日も、東チモール大統領がお越しになっておりましたが、皆さんと日本の友情は、永遠であり、本物の絆です。

皆さんが生まれた頃、1992年、自衛隊が初めて国連PKOへの協力として、カンボジアPKOに参加しました。大変厳しい環境の中で、カンボジアの人々、国連のメンバーと力を合わせながら、道路を舗装し、紛争後のカンボジアの復興のために力を尽くしました。

選挙後、カンボジアは、立派に国の復興を成し遂げ、現在は自衛隊と同じ国連南スーダンミッション、UNMISSに医療部隊を派遣し、「支援される側」から「支援する側」へと成長しました。

先日私は、南スーダンに派遣中の相園隊長とテレビ会議で直接お話しをしました。その際、相園隊長は、現地で起きた、次のことを教えてくれました。

日本隊は医務室を持っているが、歯科治療など日本隊の医務室では診察できないことについては、エリアの医療を担当するカンボジアの医療部隊のお世話になっている。各国のPKO要員も同様に、診察や治療が必要な時には、カンボジアの医療隊のお世話になっている。

その際、受診料については、国連の枠ではなく自国の判断で派遣されている要員は、費用を徴収されるのが通常である。しかし、日本隊だけはずっと全ての隊員が無料で診察を行ってもらっていた。

相園隊長は、そのことをずっと不思議に思っており、隊長自身がカンボジアの病院長に対して、なぜ日本隊だけこうした配慮があるのかと聞いてみたところ、カンボジア隊の院長はこう答えたそうです。

「20年前、日本はカンボジアを支援してくれた。そのささやかな恩返しである。」

このことは、自衛隊が海外の現場に赴き、顔の見える支援を行い、まいた種が、月日を経て花が開き、固い友情となり、また次の国造りを支える力となっていることを教えてくれました。

諸君は、将来、国際社会で活躍する人材となります。皆さんの行い一つ一つが、日本の信頼、国民の平和な暮らし、さらには、国際社会の平和と安定に、確実に繋がっていることを決して忘れないでください。

最後に、「体で培った真理こそ、我がものなり」

卒業生の諸君が、ここ小原台で学んだことを、いろんなところで実践をし、活躍されること、そして、ますます、自己研鑽され、それが、生涯を貫く本物の真理となることを祈念するとともに、

本日まで、学生を育て、見守り、ご指導、ご援助頂きました、ご父兄、学校関係者、ご来賓、外国政府、関係省庁、協力団体はじめ、多くの協力者の皆さんに心から御礼とお喜びを申し上げ、祝辞とします。

「卒業おめでとう！」

平成28年3月21日

防衛大臣 中谷 元